

図書館 利用者の 声

本は武田通りを抜けて、 そして電波に乗って

コバヤシ チエ
臨床研究連携推進部 小林 知恵 特任助教

本学医学部キャンパスに着任して約半年。新型コロナウイルス感染症流行に伴う様々な規制に、車なし暑さ耐性なしという個人的な事情も重なり、附属図書館の手厚いサービスに日々助けられています。特に本館・医学分館間の現物貸借サービスは、最短で申込みの翌日に資料を受け取れるスピーディーさも相まって、私にとってインフラといっても過言ではありません。各研究室所蔵の本も取り寄せできる場合があるので、馴染みのない他部局の研究室に詣でる手間を省けるのもありがたい限りです。

近頃は電子ブックも利用するようになりました。本学附属図書館は電子ブックの購入に力を入れていて、専門書から軽い読み物に至るまで日毎新しいタイトルが配架されているのを皆さんご存知でしょうか。図書館ウェブサイトのトップページを回転寿司よろしく右から左へと流れる新着タイトルの表紙を眺めているだけで心躍ります。特に紙の図鑑や事典類は借り出すだけで一苦労でしたが、電子化のおかげで手に取るハードルが随分と下がりました。ついつい楽器の教本やレシピ本など研究に関係のない本にも手が伸びてしまい、MyLibraryページのブックマークリストは長くなる一方です。

読むべき資料だけでなく日々の生活を彩る本に出会い、味わうためのサービスが充実している山梨大学附属図書館。夜間開館や文献複写サービスなど語りたいことは尽きませんが、それはまた別の機会に。これからもお世話になります。

誰かの息が聞こえる場所

大学院 工学専攻 マルヤマ キララ
修士課程2年 丸山 洸

私の図書館の楽しみ方は、「本棚を眺める」です。図書館の利用法なので、「本を読む」以外のことを紹介するのも恐縮ではありますが、ただ本棚に収まった背表紙を眺めることが、意外と楽しかったりします。一般書架はもちろんですが、特にオススメなのは、新着書架をざっとチェックすることです。

自分以外の方がどんな研究をしているのか、同じ大学内でも、お互いに知る機会はなかなかないものです。そんな中、新着書架を見てみると、同じようなテーマの本が同時に複数冊あることがあります。マンホールの蓋の話、CADの専門書、等…。ああ、誰かが講義や研究で必要だったのだろうか、と、本の背表紙だけからも推察できます。まあ、すべて想像にすぎないのですが、同じ大学内の違う方々が息づいている気配を感じられると、自分は一人ではないのだと励まされます。

調べ学習や自主学習に利用することはもちろん、研究や勉強で行き詰ったときにこそ、リフレッシュのために図書館に行ってみてください。同じ大学内の誰かの興味関心を垣間見ると、モチベーション向上にもつながると思います。

よろしければ、ご自分の研究や興味に関する図書は積極的にリクエストしてみてください。どんな勉強をしているのか、リクエスト本を通じて教えてください。今日も新着書架を見に行くのが楽しみです。

最後に、いつも温かく利用しやすい環境を整えてくださる図書館職員の皆様に心から感謝を申し上げます。